

発火・・・・・・・・。センサーからの発火が連鎖していき、自律制御を実現し、アクチュエータを発火させていく。パラメータ値変換も行われるかな。これらは、機械学習したネットワークとして実現できねばいけません。

発火したノードは **LifeLog** オブジェクトセットに登録します。データベースにあるものはオブジェクト化して、オブジェクトプールに設定し、その後、**LifeLog** に登録します。あとは、いくつかのサブシステムのオブジェクトセットにサブシステムを決定するオントロジーで判断して、登録していくこととなります。絞り込んだうえで、登録してあるオブジェクト（コンセプト）について、重み付け投票法構築のためのログをコンセプトの作業域に作ります。プロダクションシステムとかフォーカス、選択プロセス用にもログを登録します。ログは共起関係が基本です。

発火の他に、解析というものがあります。解析も発火であろうか。解析も結局は特定のオントロジーを発火させることであります。解析の結果は評価オントロジーの発火、特定のオントロジーの値の設定です。この結果について、重み付き投票で次々とノードが発火していくこととなります。また、黑板システムの条件パターンとなるわけです。

今まで気がつかなかったのですが、オントロジーとオントロジー値が、重み付けの大きさを決定することがあります。パラメータ値変換によって、この最終重み付けを決める操作も必要であると分かりました。

解析の主なものは、自然言語処理（記号列解析）と画像解析です。自動的に解析処理がなされるものと、目標のオントロジーを設定して、それがどうかを見る解析（オンデマンド解析）があります。

発火も解析も、次のコンセプトから起動されます。

- (1) 重み付き投票ノード
- (2) プロダクションシステムノード
- (3) フィルター（フォーカスシステム）ノード

人工知能の問題は、これらをいかに自律的に構築するか（機械学習）ということと、いかにこれらの働きを有効に制御していくかということを解決することです。